

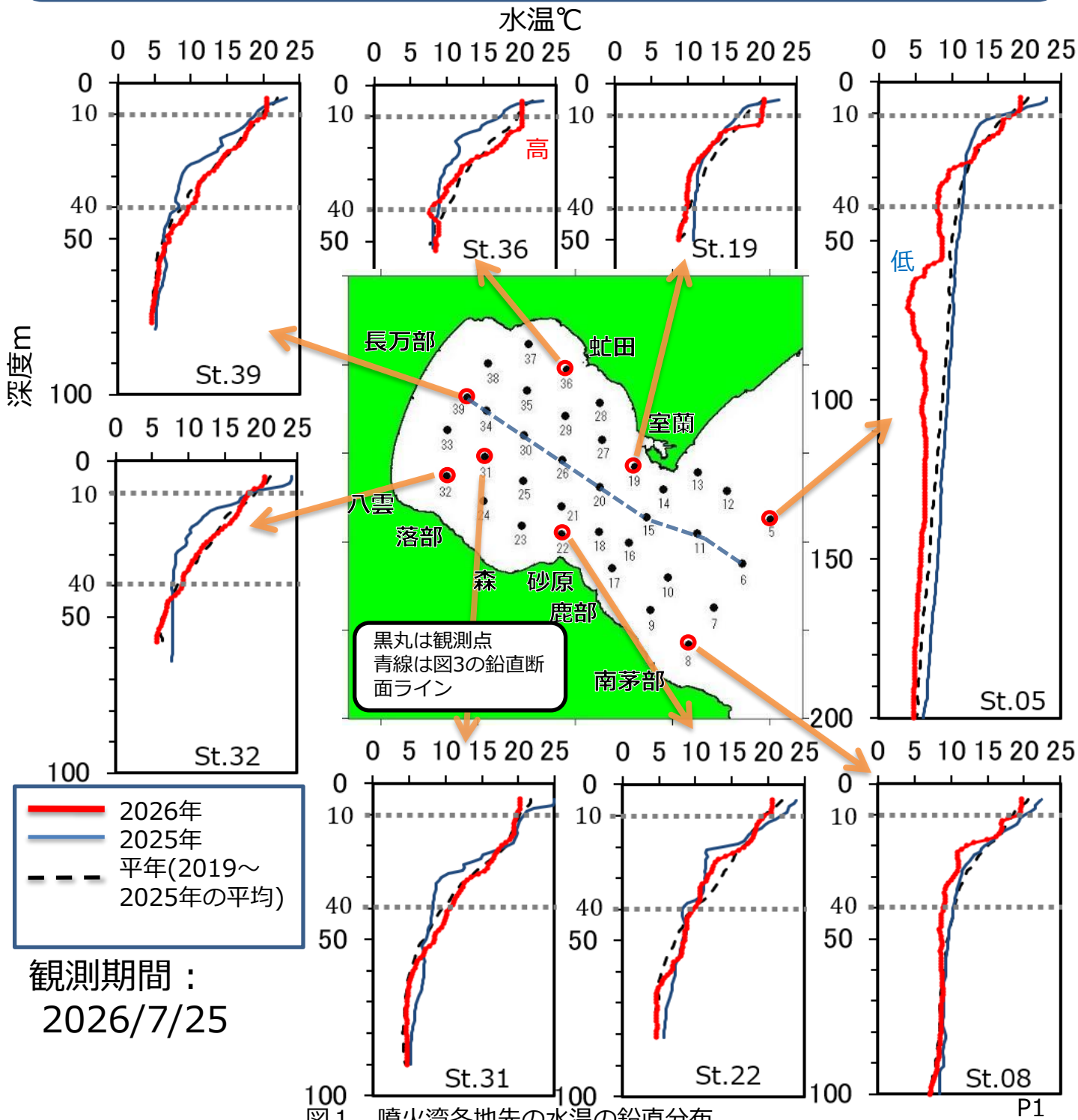


2026年7月25日に函館水産試験場試験調査船「金星丸」で実施した噴火湾周辺海域の水温・塩分・溶存酸素の観測結果をお知らせします。
QRコードからもアクセスできます→

- ・湾内の水温は前年と比べ海面付近で低く、深度10～40mでは高い
- ・塩分は全層で前年より低く、湾周辺に津軽暖流水は見られない
- ・湾内海底の貧酸素は継続する見込み

【水温の鉛直分布】

噴火湾内の深度5mの水温は19～21℃で、前年と比べ2～5℃低い値でした（図1）。深度10～40mの水温は前年より高く（St.36, 20m, 前年+5.0℃），おおむね平年並※でした。※7月下旬～8月上旬の調査は2019年以降に実施しているため平年値は2019年以降の平均としています。



【水温、塩分の水平分布】

噴火湾内深度5mの水温は20℃前後で、ほぼ一様となっていました（図2A）。深度5mの塩分は湾口部および湾奥で低く31.4以下となっています（図2B）。

深度20mの水温は湾内の中央部で19℃以上で前年並み、沿岸では16～18℃台と前年よりも高くなっています（図2C,E）。深度20mの塩分は湾内で32.0～32.6、湾外で32.6～33.0と、前年同時期と比べ低くなっていました（図2D,F）。

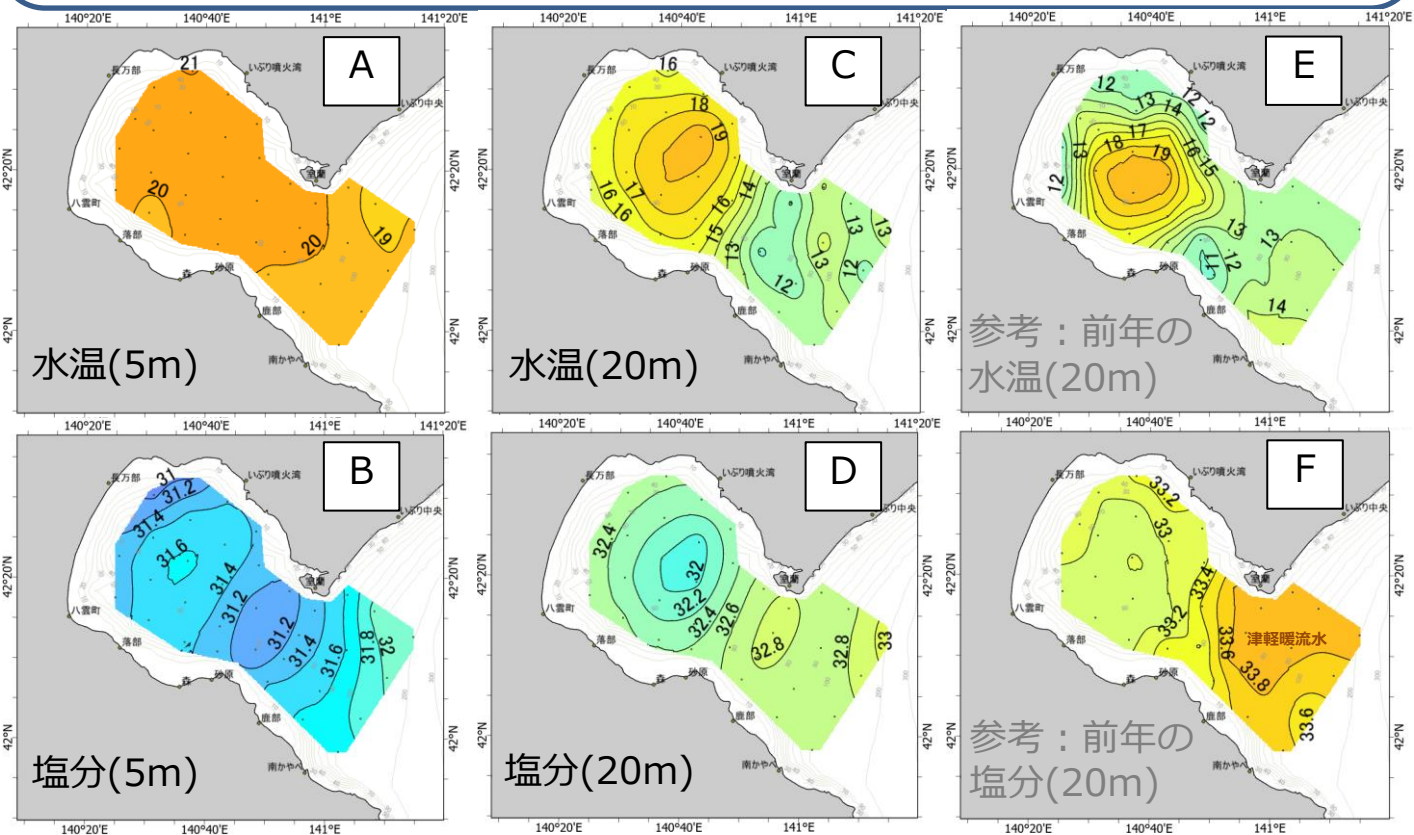


図2 A:水温(5m), B:塩分(5m), C:水温(20m), D:塩分(20m), E:前年の水温(20m), F:前年の塩分(20m)

【海底溶存酸素】

湾内定点における海底の溶存酸素量は2.0 ml/Lを下回り、貧酸素状態になっていました（図3）。

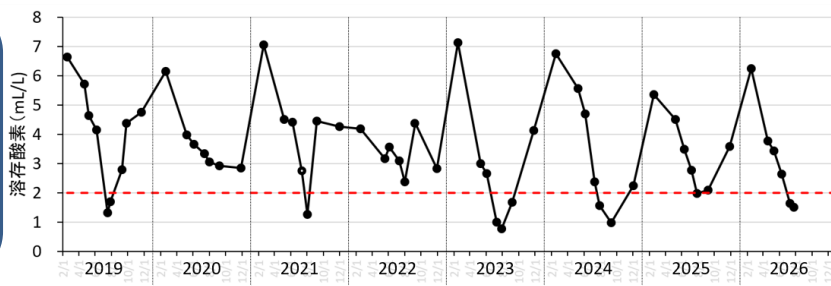


図3 湾内 (St.31) における海底の溶存酸素 (赤破線は貧酸素の基準)

【水温、塩分、密度の鉛直断面分布】

噴火湾内表層には前回に引き続き夏季噴火湾表層水※が分布していました。津軽暖流水※※は噴火湾周辺には見られません。深度50m以浅の密度は26以下でした（図4）。

※河川水の流入と大気からの加熱により高温低塩分化した表層の水塊（水温>18℃，塩分<32.0）

※※津軽暖流由来の水塊（水温>6℃，塩分>33.6），夏～秋に湾内に流入すると貧酸素が解消する

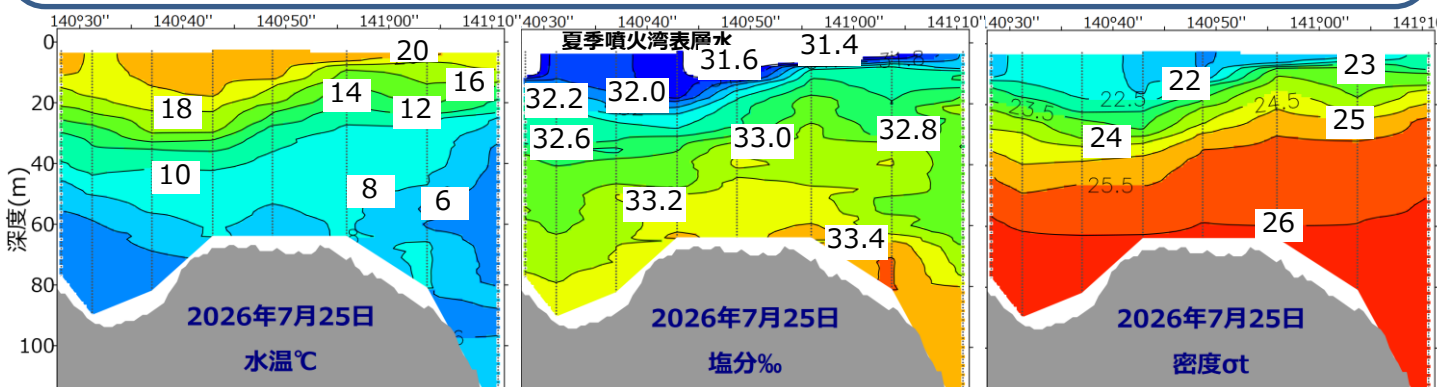


図4 水温・塩分・密度の鉛直断面図（図中破線は観測点、鉛直断面の位置は図1の青破線を参照）